



Fore Please / 世界ゴルフ

識聞録

ゴルフビジネスのプロが30年以上回って見て聞いて感じた
世界のゴルフ文化をお伝える連載。
今回はトム・ワトソンとキャディの秘話をお届けします。

名物サンドで待つ アーメンコーナー。

コース内で販売されているマスターズ名物と言えば、パトロンだけでなく選手や関係者もよく食べる、マスターズらしいグリーン紙で包装されたサンドイッチ。日本ではコンビニのオニギリのような存在です。世界共通のハム&チーズやエッグサンドから、オーガスタ極秘レシピで作られている、他では食べることのできない名物ピメント・チーズサンドまで、様々な味を楽しめます。今回はそんなサンドイッチが登場するお話。

ゴルフ界のスーパースターの一人、トム・ワトソンは、スタンフォード大学出身のエリートゴルファーであり、日本でも「若獅子」や「ニクラウス2世」と呼ばれ親しまれています。1977年と81年にマスターズ優勝を果たした現在66歳のワトソンは、通算43回マスターズに出場し、今年、オーガスタでのプレーに終止符を打ちました。そして、その模様はテレビ中継でも紹介されました。そんなワトソンは、1973年から20回にわたり、マスターズで彼のキャディを務めたブルース・エドワーズさんとの思い出を語ることが今でも忘れてはいませんでした。

オーガスタで数多くのドラマ

マが起るアーメンコーナーの中でも、最後の13番ホール・パー5では、選手たちは2オンを仕掛け、イーグルを狙います。そのため、13番のティエグラウンドでは

少し待つことが多くなり、選手やキャディたちはそこでひと休みをするのが習慣ですが、エドワーズさんも同様に、ワトソンと一緒に、毎回好物のエッグサンドを食べて、最後のチャージに備えていました。

ちなみに、13番ティエグラウンドは、パトロンだけでなくカメラマンも入ることができない場所。今でこそ、遠隔操作されているテレビカメラもありますが、実はプロデューサーなどのスタッフも、選手たちの邪魔をしないように配慮しています。パトロンやテレビの目もなく、エドワーズさんもリラックスしてエッグサンドを食べていたのでしょう。

天折した相棒に 捧げたメッセーシ。

そんなエドワーズさんはALS（ルー・ゲーリック病）としても知られている、運動神経系が侵される病）という難病のため、2004年、奇しくもマスターズの初日に、49歳という若さで亡くなりました。

Vol.31

サンドイッチに
まつわるお話

トム・ワトソンが マスターズで亡き相棒へ 示した想い。



ワトソンと現在のワトソンのキャディであるオックスマンさんは、その翌年から、マスターズの初日のラウンドで必ず、13番のティエグラウンドに彼の好物だったエッグサンドをお供えするようになりました。最初に残したサンドイッチのパッケージにはワトソンが、"To Bruce, from the boys"と書きました。

2度のマスターズ・チャンピオンに輝いたワトソンが、自らのキャディとの思い出を、マスターズの伝統のひとつとして残したお話。マスターズを愛し、一緒に戦ったキャディへの想いがあるからこそですね。

来年、私もエドワーズさんに敬意を表し、オーガスタでエッグサンドをいただきたいと思っています。

ゴルフビジネスの プロフェッショナル 神野方仁（じんの・みちひと）



1956年生まれ。テレ・プランニング・インターナショナル株式会社・代表取締役社長。国内外のさまざまなスポーツビジネスに関わり、中でもゴルフはマスターズのようなメジャー大会からジュニアゴルフに至るまで、イベント、放送、広告、マーケティングなどの面に長年携わっている。日記を公開中 Fast Track Michi's Diary; www.tpi-j.co.jp/ceo_blog/

イラスト／ソリマチアキラ